

■発行元 神戸学院大学
地域研究センター明石ハウス
■住所 〒673-0871
明石市大蔵八幡町5-23
■電話 078-995-5414
078-974-4232(事務局)
■mail akashi-h@human.
kobegakuin.ac.jp

神戸学院大学地域研究センター 明石ハウス通信

明石ハウス年表 [1] 2012-2014

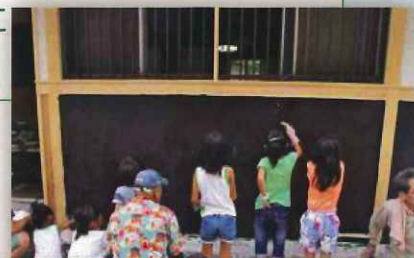
神戸学院大学地域研究センターは、2002年の開設以来、明石市・大蔵地域の伝統行事や文化資源の調査などを、地域のみなさまのご協力のもとに行ってきました。その活動拠点「大蔵谷なう。活動本部」(現・明石ハウス)を大蔵八幡町にお借りしたのが、2012年7月です。以来、この場所で行ってきた様々な活動を、年表でご紹介いたします。

2012	7.1	「大蔵谷なう。活動本部」オープン	
	7.18	勉強会『台湾に残る日本』	
	7.31	勉強会『日本の蔵のつくり方』	
	8.29	勉強会『近代の但馬地方におけるスキーツーリズムから考える地域活性化』 人文学研究会の学生定期討論会 『地域猫活動からみる人間と動物の共生』、『ボランティアから何を学び得たか』	
	9.8	ワークショップ『大蔵谷の町家にて伝統的なベンガラ塗り体験』	
	10.6~7	写真展『「宿場・大蔵谷」の町並み 今と昔』	
	10.12	勉強会『海流うどん』	
	11.14	勉強会・交流会『気候風土と民家』	
	2013	2.2、2.9	勉強会 『日本とバリの伝統文化の共演—講談絵巻ワヤンベベル—』
		2.25	勉強会『大蔵谷街道筋を訪ねて—蔵を探る—』、 『子午線ライン史跡再発見No.10—柿本神社—』
3.26		勉強会『源氏物語と明石』、『大蔵谷の民家』	
5.1		勉強会『沖縄のくらしと健康』	
5.21		勉強会『台湾の古民家再生』	
5.29		勉強会『明石の海の記憶、そして伝承』、『伝統的知識の重要性—沖縄のマブイ(靈魂)を事例に』 (地域子育て見守り・地域の歴史発見隊と共催)	
6.12		勉強会『沖縄県糸満の魚売り—市場に息づく魚食文化—』	
7.17		勉強会『越劇の美しさ—梁山伯と祝英台—』	

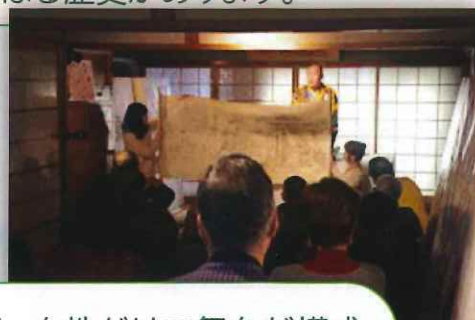
記念すべき最初のイベント



柿渋にベンガラを混ぜて、外壁を塗装。地域の小学生が大勢で手伝ってくれました。現在の外観はこの時に完成。



ワヤンベベルとは、絵巻物を紐解きながら演奏と語りを行う、インドネシアの伝統的な講釈のこと。16世紀にさかのぼる歴史があります。



越劇は、女性だけで舞台が構成される演劇で、「中国のタカラヅカ」とも。人文学部の教員の解説とともに、映像を鑑賞しました。衣装の展示も！



2013	7.27	勉強会『バリ島の芸能世界—仮面・音・舞—』
	10.2	勉強会『島に「障害」がやってきた！—南太平洋島嶼国サモアの障害者福祉』
	10.4～	エッセイ講座『今からはじめよう！ものかき塾—書いて残す思い出の街、思い出の人』
	10.13	写真展deひとやすみ『稲爪神社2013夏祭り』
	10.30	勉強会『人間性の起源を考える』
	11.13	特別企画『男性フラ～再生の物語～』
	12.14	学生主催イベント『大塩邸を温めるプロジェクト—大塩邸を知ってもらう会』
	12.18	勉強会『モノづくりからはじまるマチづくり』 ワークショップ『大蔵谷をキャンドルで彩ろう♪—クリスマスキャンドルシェイド作成体験』
	12.19	勉強会『沖縄の祖老祭祀における女性の役割』、 『明石と平家の公達』、『経正の墓所探訪記』(地域子育て見守り・地域の歴史発見隊と共催)
2014	1.29	勉強会『ぼんやり思っていることをちゃんと考えてみる』
	2.5	勉強会『淡路島のアーティストと地域の関係』
	2.25	明石ハウス(大塩邸)を温めるプロジェクト『古民家×人×鍋=?』

夏休み特別企画！バリ・ガムランと舞踊グループ「バパン・サリ」の皆さんをお招きし、バリ舞踊とガムランの実演をしていただきました。



学生による企画。庭の手入れと茶話会の二部構成でした。



下は4歳から上は85歳まで！空きびんと色画用紙を材料に、キャンドルシェイド作りを楽しみました。



大蔵谷なう。(2012-2014)

地域(明石市の旧宿場町「大蔵谷」)と大学との交流をめざした一連の活動の総称。教員の専門分野・研究結果を活用した勉強会はもちろん、参加型のワークショップや、写真や映像・地図パネル等の展示、また、学外からゲストを招聘しての勉強会、学生・OBが主導する企画など、様々な活動が展開されました。

ものかき塾 (2013)

地域研究センター博士研究員(当時)・吉田佳世氏による企画。「自分史」の執筆を通して、楽しみながら互いを知り、交流する場として行われました。講座は全8回。地域の方10名にご参加いただきました。講座修了後には成果報告書として、『大蔵谷 輪・話・和の記』と題した冊子が発行されました。

稲爪神社・秋例大祭フィールドワーク (2003～現在)



学生が担ぐ女衆神輿(2018年)

稲爪神社の獅子舞は、全国でも珍しい形式を継承するものであり、兵庫県の重要無形民俗文化財にも指定されています。人文学部の教員が2002年に行った秋例大祭に関する調査がきっかけとなり、翌2003年からは、関係各位のご協力のもと、人類学分野を専攻する学生たちもフィールドワーク活動をさせていただいています。

そして、神戸学院大学の有瀬キャンパスは、なんと稲爪神社の氏子区域である！とのことから、2004年からは、「献燈やたい」と「女衆神輿」の担ぎ手を学生が担当する形で、祭礼に参加させていただきました。コロナ禍による中断はありましたが、学生・教員による調査は、今後も継続する予定です。

み た ま き 教員紹介 三田 牧 准教授(文化人類学)

Q：研究について教えてください

私は文化人類学の研究者です。文化人類学は、人の営みを通して、その社会や文化について理解を深める学問です。これまで沖縄やパラオをフィールドに研究してきました。神戸学院大学に赴任したことで、大蔵谷の地域社会に出会う機会を得ました。そこで現在は、「地域社会と神様」をテーマに研究をしています。神様(稲爪神社)を中心に、人々がどのような活動をし、どのような地域共同体を形成してきたか、に関心があります。みなさんから聞き取りをしたり、観察をしたりしています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



池田義雄さんと私
(宮田勉さん撮影)

Q：明石との関係について教えてください

私は京都出身なので、明石はたまに遊びに来るところでした。はじめて神戸学院に来るとき、明石駅からバスに乗りました。そして、大蔵谷にさしかかるあたりから、古い建物や街並みを見て、なんだかおもしろそうだと感じました。その直感は当たっていたと思います。私の育った地域社会では、地域のめだった祭りがありません。そして、地域の人間関係も希薄です。獅子舞の練習では、子どもから大人まで、様々な人たちがかわっている、その姿が魅力的に映りました。



獅子と遊ぶ子どもたち
(休天神にて。三田撮影)

Youtube
連動企画

くずし字解読講座

第4回

▼「」の二画目

くずし字では、字形を簡易にするために、点画が省略されます。また、字と字の間でも筆を紙から離さずに、続けて書くこともあります。

こうした要因が重なって、二字が合体したような形になったのが、左の画像の「」です。



わ(王)びしき

「」(字母は「己」)は、通常は上下二画から構成されます。その二画目を省略し、次の字の一画目に続きます。



この「合体した」は非常によく使われるので、「合字(ごうじ)」に分類されます。明治時代には「」を一字にまとめた活字も作られました。また、「」と同様に、「」(「」と「」などでも、「」の二画目を省略した形が使われます。



いん

いん

▼横画と点

「」の字母「己」の一画目は、左から右へとわたる横画(一)です。しかし、ひらがなとして書く場合は、横画ではなく点(ゝ)で表現されます。

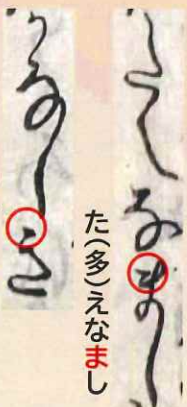
これと同じように、横画(一)が点(ゝ)に置き換わることは、珍しくありません。例えば、現在のひらがなの「よ」の字母は「与」です。一画目は横画(一)です。現在の「よ」も、一画目は横画(一)です。一方、くずし字では点(ゝ)を使う字形がよく見られます。



心づようしも

点(ゝ)の次の画は下方へ続きます。画像の「よ」の二画目も、一画目(ゝ)の下に伸びています。現在の「よ」とは異なる形に見えます。

「ま(末)」や「き(幾)」でも、一画目の横画(一)が点(ゝ)に置き換わりやす。このため、字形が現在とは異なるように見えます。



か(可)なしき

た(多)えなまし

明石ハウス NEWS

神戸学院大学 明石ハウス

検索

古い写真を探しています

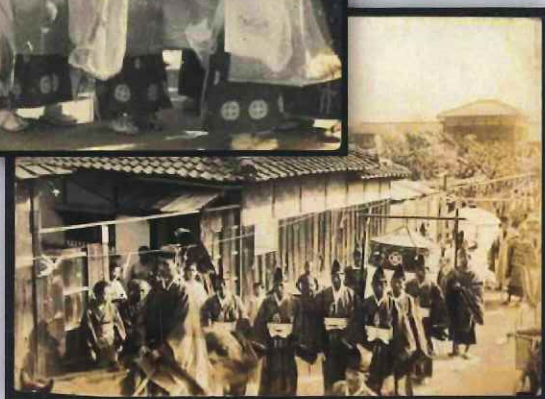
もし大蔵谷の古い写真をお持ちでしたら、拝見させていただきませんか。差し支えなければ、そのコピーを取らせていただき、神戸学院大にデータをコレクションさせてください。その写真についての思い出や、ご存じのことをお話しただければ、なおさらありがたく存じます。

(とりわけ、大蔵海岸周辺の写真を探しております。)

稲爪神社で写真を 展示しています

神戸学院大学人文学部の学生・教員が撮影した写真を、稲爪神社の境内にて展示しています。地域の状況を調査・記録し、学問的課題を見いだすためのフィールドワーク活動の一環として、2021年度に撮影したものです。大蔵谷の「いま」の様子が収められています。是非ご覧ください。

明石ハウス写真展「稲爪神社 秋の大祭の物語」開催中



終戦から間もない昭和20年代前半と推定される、稲爪神社・秋の大祭の様子を撮影した写真を、明石ハウスにて展示しております。主に稲爪神社ご所蔵のものです。明石ハウスでは、展示中の写真にうつる風景や人物、祭礼の様子などにまつわる情報を求めています。写真が呼び起こす思い出など、お話をお聞かせいただければ幸いです。

場所 明石ハウス

日時 火・金(祝日を除く) 9:00-16:00

☎078-995-5414 (明石ハウス開室時のみ)

☎078-974-4232 (火水金10:00-17:00)

akashi-h@human.kobegakuin.ac.jp

Youtube「オンライン くずし字講座」配信中



Youtube
明石ハウスチャンネル

「オンラインくずし字講座」をYoutube「明石ハウスチャンネル」にて公開しています。

江戸時代に出版された『源氏物語』の注釈書『湖月抄(こげつしょう)』の「明石」の巻を使ってくずし字を学ぶという企画です。4月にリニューアルしました地域研究センターのWebサイトでも、関連記事の掲載を行っています。



地域研究センター
Webサイト

明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

山陽電鉄 大蔵谷駅 徒歩5分

